

市算数研究会 第3学年部会 9月提案
3年「かけ算のしかたを考えよう」

提案者 辻岡 梨江(羽沢小学校)

単元の主張	被乗数が2位数・3位数と桁が増えても、既習の乗法九九や乗法のきまりを適用できることを理解することが大切である。数のまとまりに着目し、何十といくつ、何百と何十といくつで計算するよさを実感することで、乗法の筆算形式を知るだけでなく、九九などの既習を活用しようとする態度を伸ばすことができる。また、乗法のきまりを使って積を求める活動を通して、計算の仕方を考えたり、具体的な数で計算して法則を見出したり、類推して考える過程を大切に、既習の知識・技能等を関連付けながら統合的・発展的に考える。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 単元デザイン

①	②(本時)	③	④	⑤⑥	⑦	⑧	⑨⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮⑯
何十、何百と1位数のかけ算の仕方の理解	2位数×1位数の計算の仕方の理解	2位数×1位数の筆算形式の理解	繰り上がりのある場合の理解	計算の習熟	3位数×1位数の計算の仕方の理解	3位数×1位数の筆算形式の理解	計算の習熟	3口の計算	簡単な2位数×1位数程度の暗算	除法の逆の乗法	乗法に関して成り立つ性質	知識・技能の定着と、次の学習の見直し
何十や何百に1位数をかける計算では、10や100を単位として見て、どのように答えを求められるか、説明する。	10を単位として考え、何十といくつで計算すると、九九を活用した計算で積を求めることのできるよさに気付く。	前時までの考えを関連付けて筆算の仕方を理解する。	繰り上がりの処理の仕方を理解する。	部分積の繰り上がりについて理解し、計算を練習する。	被乗数が3位数になっても、10や100を単位として見ると、九九で計算できることを理解する。	桁数が増えても同じ方法で筆算の計算の仕方の理解をはかる。	部分積の繰り上がりについて理解し、計算を練習する。	乗法の結合法則について理解する。	計算の工夫をして、暗算で計算をする。	除法の逆の乗法場面を扱い、乗法が用いられることを理解する。	乗法の計算の中で、分配法則、結合法則が用いられてきたことを確かめ、乗法の計算を捉えなおす。	乗数が2位数になっても10を単位とすれば、1位数をかける計算に帰着できそうだと気付く。

2. 単元で育成する資質・能力

①生きて働く「知識・技能」	②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」
(ア) 2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算が、乗法九九など基本的な計算を基にしてできることを理解すること。 (イ) 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。 (ウ) 乗法に関して成り立つ性質の理解をすること。	(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。 (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度を養う。
既習の乗法や九九をもとにしながら、数のまとまりに着目して計算する。数のまとまりに着目して計算することで、2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算も、何十といくつに分配し、何十×1位数やいくつ×1位数(九九)を使って計算できることを理解できるようにする。 乗法が用いられる場面を判断し、適切に用いることができるように指導する。乗数や被乗数が人数や個数の場面や、除法の逆としての乗法の場面などもある。数量の関係を図と関連付けて捉えさせ、立式の根拠とできるようにする。 乗法の交換法則、結合法則、分配法則については、具体的な数で法則を見出すなどして、児童が主体的に調べていけるようにする。	計算の仕方を考え、九九の計算に帰着して結果を求められるように、図、式、言葉で表したり、説明する活動を取り入れる。2位数や3位数に、1位数をかける計算は計算の仕方覚えるだけでなく、十進位取り記数法での数の表し方や、10や100を単位として数を見ることで九九を使って計算できることを理解し、統合的・発展的に考えることができるようにする。 結合法則が成り立つことから、場面を様々な方向から捉え、交換法則を使うと計算が効率的になることを学習する。計算が成り立つ性質を活用し、工夫して計算することを通して、問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとする態度や、多面的に考えようとする態度の育成につなげたい。	乗法が九九の範囲を超えて、無限にあることを知り、答えが出たら終わりではなく、その「わけ」を大切にしようとする姿勢を大切にすることで、新たな数学の場面に出会ったとしても、既習事項から考えて得られた結果を捉えなおしたり、新たな問題を見出したりして、統合的・発展的に考察を進めていこうとする態度につながる。10や100を単位として見て、単位のいくつ分として捉えることで、計算が九九に帰着できることから類推して、計算を簡単に処理しようとしたり、被乗数が3位数・4位数の場合にも同じように計算したりと、筋道立てて発展させて考える楽しさを感じさせたい。

3. 単元に関わる内容と見方・考え方の系統

		A「数と計算」領域		「演算決定」「計算」			
学年	内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
内容		・加法、減法が用いられる場合とそれらの意味 ・加法の計算 ・減法の計算	・乗法が用いられる場合とその意味 ・乗法の計算	・2位数や3位数が用いられる乗法の場合とその意味 ・乗法の交換法則、分配法則、結合法則の計算	・乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法が用いられる場合とその意味 ・乗数や除数が整数である場合の小数の乗法と除法の計算	・小数の乗法、除法の意味 ・小数の乗法と除法の計算	・分数の乗法および除法の意味 ・分数の乗法および除法の計算
数量を捉える見方		・数量の関係(加法や減法の場面と見る)	・数量の関係(乗法の場面と見る)	・数量の関係(様々な乗法の場面と見る)	・数量の関係(数の相対的な大きさで見ると見る)	・乗法および除法の意味の拡張(割合として見る)	・乗法および除法の意味の拡張(割合として見る)
考え方		・計算の仕方考える ・計算の意味を考える	・計算の仕方考える ・計算の意味を考える ・計算に関して成り立つ性質を見出す			・乗法および除法の意味を捉えなおす	

4. 本時について

本時目標 2位数×1位数の計算の仕方について、被乗数の分け方に着目して、九九を活用した計算の仕方考えることができる。

○本時の主旨

第3学年に設定されている数学的活動の「(エ) 問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動」を行う。乗法九九を活用して計算する方法を考えることで、単に新しい乗法の学習と捉えるのではなく、被乗数を分けて考えれば、既習事項を活用して計算できるということに気付く。問題解決の結果や過程を振り返って、結果を捉えなおしたり、新たな問題を見出したりしながら、統合的・発展的に考察を進め、考える楽しさを感じさせる。

①何十、何百に1位数をかける乗法の場面を、10を単位として数を見ることで九九を活用して計算できることを確認する。

○前時の復習をもとに、何十×いくつの計算も九九を活用して計算できたことを確認。

10のまとまりとして見ることで、10のまとまり2つが3つある。基にしている考え方は、九九であることに着目する。

「20×3は九九を使って求めたよ。」
 「0を取って考えて、後から付けるんだよ。」
 「もとにしている考え方は、2×3だよ。」
 「十何みたいな、十の位が1の2桁の数ならできるかも。」

②既習事項(九九)を活用した計算方法を考える。

○アレイ図や式、九九を活用し、答えを求める。

被乗数の14をどう見るかに着目する。

「かけられる数を分けたらいいと思う。」
 「14は、7と7に分けられるよ。」
 「7×2+7×2をすると、九九でも求められる。」
 「14を10と4に分けたらいいんじゃないかな？」

③いつでも九九を活用できる分け方を考え、10を単位として見て考える有用性を見出す。

○②で出た考えとの共通の方法について話し合う。

なぜ2つは同じ方法だったのか、何がこの方法のよいところなのか話し合う。

「かけられる数を10と10と3に分けたよ。」
 「20と3に分けたよ。」
 「23は、10と10と3に分けることもできたけど、20と3に分けたら②で出た方法で計算できたよ。」

④被乗数が3位数の場合にも同じように計算したりと、筋道立てて発展させて考える。

○よさの確認をし、被乗数が3位数の計算も同様にできることを類推する。

10を単位として数を見るよさを実感し、被乗数の桁数が大きくなっても同様に考えれば計算できるかもしれないと類推する。

「何十といくつに分けると、どんな時もあるよ。」
 「3桁の数になっても、もしかしたら何百と何十といくつに分けて、計算できるかもしれない。」

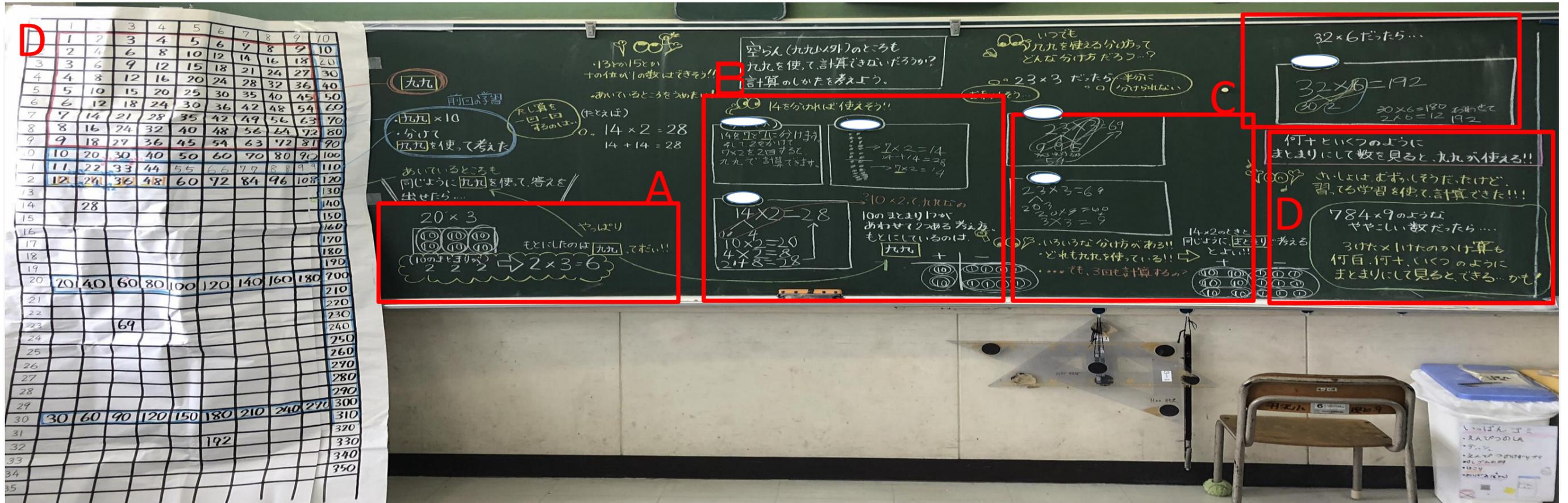
本時における 知識・技能 : 10を単位として見て、単位に着目しながら被乗数を分配し、2位数×1位数の計算の仕方やその性質について理解する。

思考・判断・表現 : 九九を使って計算できることを理解し、統合的・発展的に見る。

学びに向かう力 : 筋道立て、発展させて考える態度の育成。

見方: 着眼点 被乗数の分け方に着目する

考え方: 思考・認知、表現方法 式やアレイ図を用いて、乗法九九の活用の仕方を表す。



見方・考え方の成長 被乗数の分け方に着目し、十進位取り記数法をもとに乗法九九の活用の仕方考える。

5.授業記録

教師の発問	児童の反応
①何十、何百に一位数をかける乗法の場面を、10を単位として数を見ることで九九を活用して計算できることを確認する。	
T1 昨日の字習の続きです。昨日は、どんな字習をしましたか？	C1 はい。20の段、30の段の確認をしました。
	C2 70×9 とか 200×3 もやったよ。
T2 そうですね。昨日は知らない段の、とくに何十とか何百×いくつかの計算の仕方を考えましたね。	
そして色分けをしましたね。	C3 赤い四角の中は、九九だった。
	C4 青いところは、九九×10をしたり、12の段とかは足したりしてもとめました。
T3 そうでしたね。分けると九九を使ってできるっていう方法も見	C5 でも、 12×5 を分けて考えたりもしたよ。そうしたら、九九を使
T4 つけましたね。	用できた。
T5 今、九九という言葉がたくさん出てきましたが…ちなみに	
昨日の20の段の例えば、 20×3 も？	C6 2×3 をもとにして考えた。
	C7 なんで 2×3 をもとにするの？
T6 たしかに、難しそうですね。この空欄のところは、やっぱり無理かあ…。	C8 昨日やったじゃん。20って、10が2こあるってことでしょ？
T7 九九かあ。	C9 まとまりで考えるのか。
T8 なんでそう思いましたか？	C10 空いているところも、もしかしたらできるかも。
	C11 でも、中途半端な数だからできないと思う…。
T9 なるほどね。みんなのできそう！っていう気持ちと、全部うめたい！	C12 いや、できる。同じように九九を使ったら、できる気がする。
っていう気持ちはすごく伝わりました。じゃあ、こんなかけ算	T11 13とか15とか十何の数はできそう。
だったらどうかな？	T12 35とかは、数が大きいからできなそうだけど、13とか15とかは
T10 そうですね。 14×2 はどうやってもとめますか？	数が小さいからできそうだと思います。
T11 いいね。足し算。	T13 10の位が1の数字の段はできる。
T12 っていうことは 14×2 は、 $14 + 14$ で28でいいですか？	T14 10の位が1の数字の段だけじゃなくて、全部うめたいな。
	C12 14×2 ？
	C13 足し算。
	C14 $\times 2$ だから、 $14 + 14$ でもとめます。答えは28。
	C15 いいです。

A

T13 どんな考えですか？	C15 いいけど…違う考えがあります。
T14 なんで大変なの？	C15 このままだと、1回1回足さなきゃいけないで大変で、例えば14×9だと、すごくめんどくさい。
T15 うんうん。だから、〇〇は、どうやって考えたのかな？	C15 足していくと、どんどん繰り上がるから、繰り上がったときに大変。 C16 めんどくさくなっちゃうから、14×2のときだったら、一の位の4をとって、10×2をして、あとは一の位だけ計算する。 C16 ん？どういうこと？ C17 違うやり方もあります。
T16 ちょっとみんなの意見を整理しますね。足し算っていうやり方もあったけど、大変なんだよね。それで、C15さんは違う考え方をしたんだよね。	C15 うん。
T17 そして、違う方法で考えた人もいたんだね。	C17 九九を使うのは一緒だけど、少し違います。
T18 なるほど。では14×2みたいに、まだうめてないところも九九を使ったら、計算できるかも…？	C18 できる。 C19 できると思います。 C20 九九を使って計算して、どんどん空欄をうめていきたい。 C21 でもかけられる数が大きいのは…どうだろう。

②既習事項(九九)を活用した計算方法を考える。

T19 分かった。では今日は、空欄のところを九九を使って計算できないか確かめてみましょう。計算の仕方考えるのが今日のめあてですね。	C22 このままだと九九を使えないから、14を分ければいいんと思う。
T20 なぜ分けなきゃいけないのかな？	C22 14の段は九九の中にはないから、7と7で分けたりしたら、九九を使えるから…。
T21 うんうん。確かに、14のままだと九九が使えないね。みんなが習っていて、もうマスターしている九九を使ってもとめたいんだけど、今◇◇さんが言ったように、14を分けて考えればできそうかな？	C23 できます。 C24 もう思いつきました。
T22 では少し時間をとります。自分の考えを、ノートに書きましょう。言葉でも図でもいいですよ。	

自力解決中

T23 それでは、どんな方法で計算したのかな？	
-------------------------	--

黒板に書く

T24 C25さん、自分の考えた計算方法を説明してください。

T25 どうぞ。

T26 やっぱり答えは28なんですわ。

T27 うんうん。かける数を分けて九九を使って計算する。そして最後に足す方法だと、習った学習を使って計算できますわ。

T28 そうなの？C32さん、説明してくれますか？

T29 へえ～。C32さんは、10と2に分けて考えたんですわ。

T30 本当だ。かけられる数が10は、九九の中にない数ですわ。

C25 はい。14を7と7に分けます。そして2をかけて、 7×2 を2回すると九九で計算できます。

C26 いいと思います。

C27 はい。僕も似ていて…説明してもいいですか？

C28 僕は、図で書きました。7番目と8番目のところで分けて、そうすると $7 \times 2 = 14$ が2つできて、足すと28になりました。

C29 C28さんは最後に足していたから、足し算でやってもいいんじゃないの？

C30 違うよ。足し算でやっちゃだめなわけじゃないんだよ。

C31 うん。14×9とかかける数が大きくなったときに、ずっと足し算は大変だから、まずかけられる数を分けて、九九で計算して、最後に足すの。

C29 そういうことか。足し算がだめなのかと思ってたよ。

C30 楽ちん同士の計算だから、簡単。

C31 もっと簡単な方法がC32さんの方法だと思うな。

C32 はい。僕は14を10と4に分けて、 $10 \times 2 = 20$ 、 $4 \times 2 = 8$ をして、最後に足して28になりました。

C33 なんで簡単なの？

C31 だって、 10×2 ってすぐ答えが分かるじゃん。九九だと苦手な段とかあって、難しいと思う人もいるかもしれないけど、 10×2 だったら、みんな絶対分かるから簡単だと思う。

C34 確かに10って、きりのいい数だからいいかも。

C35 それに昨日習ったばかりの勉強だから覚えてる。

C36 うんうん、簡単だ。

C37 でも、 $10 \times$ 何って九九じゃないよ？九九は、 9×9 までだもん。

C38 大丈夫だよ。 10×2 の10は、10円が1枚あるのと同じ意味だから、10のまとまり1つが2つあるって考えればいいんだよ。

C39 1×2 ってことか。それは九九の考え方だ。

T31	14 × 2を、九九をもとにして考えられましたね。	
T32	いくつか方法があったけど、他の空欄のところも同じように考えてみましょう。	C40 同じようにって、分けるってことですか？
T33	分けて考える！さっきと同じ方法ですね。どうする分ける？	C41 分ける。だって、そうすれば九九が使えるもん。
T34	なるほど。いつでも九九が使える分け方って、どんな分け方かな？	C41 んー。色々な分け方があるからなあ。
T35	うん。分け方がポイントなんですね。次の問題は…	C42 35 × 7。 C43 23 × 3。

③いつでも九九を活用できる分け方を考え、10を単位として数を見て考える有用性を見出す。

T36	では、23 × 3の計算の仕方について考えてみましょう。	C44 さっきと違って、半分に分けられない…。 C45 難しそう。 C46 半分にしなくてもいいんじゃない？ C47 足し算だったら簡単なんだけどな。 C48 でも、かけ算の問題だし、今日は九九を使って計算したい。
T37	23 × 3を、九九を使って、考えられるかな？。また少し時間をとります。自分の考えを、ノートに書きましょう。	

自力解決中

T38	考え方を説明してくれる人？	C49 はい。
T39	C49さん、自分の考えを発表しながら黒板に書いてみましょう。	C

T40	どうぞ。	C49 私は23 × 3の23を、9と9と5に分けました。9 × 3 = 27、9 × 3 = 27、5 × 3 = 15、合わせて69です。 C50 いいと思います。 C51 違う考えがあります。
T41	なぜそう考えたの？	C51 私は、かけられる数を20と3に分けました。20 × 3 = 60、3 × 3 = 9で、69です。 C52 同じで一す。 C53 二人とも九九を使っているよ。 C54 でも、いつでも九九が使えるのは…C51の考えだ。 C54 C49のは、3つに分けてるけど、いつも3つに分けられるか分からないからです。 C51の考えは、C32の考えの似ているよ。

T42	20のまとまりって、どういう意味かな？	C55 確かに。20のまとまりで考えてる。 C56 よく分からなくなってきた…
T43	まとまり算。面白い名前をつけたね。	C55 C32は、10円玉で考えて、C51は、20円玉はないけど、20がいくつあるかで考えているの。 C56 まとまり算だ。
T44	ゆうしとまゆの考え方だとほかの数にしてもできるのかな？	C56 まとまり算でやったら、ほかの数ももっとできるよ。 C56 やってみよう。 C57 じゃあ、 32×6 。
T45	時間はどのくらい必要ですか？	C58 3分。 C59 5分。
T46	では、3分でチャレンジしてみましよう。	

自力解決中

T47	32×6 の計算の仕方を発表してください。	C60 はい。
T48	では、C60さん。考えを発表しながら黒板に書けますか？	C60 できます。私は、まず32を30と2に分けました。 $30 \times 6 = 180$ 。 $2 \times 6 = 12$ になります。180と12を合わせて、192になりました。どうですか？

		C61 いいと思います。 C62 同じです。
--	--	---------------------------

④被乗数が3位数の場合にも同じように計算したりと、筋道立てて発展させて考える。

T49	なるほど。何十といくつのように分けて、まとまりにして数を見ると、どんなときでも九九を使って計算できるんですね。	C55 やっぱりまとまり算でできた。 C63 まとまり算だと九九を使って、どんなときでもできるんだ。 C64 どんな数になっても、できるんだと思います。
T50	そうですね。すごい。みんな、九九を使って、こんな大きな数も計算できちゃった。	C65 難しいと思ったけど、簡単だった。 C66 九九は2年生で習ったから、2年生の学習が分かればできるんだね。
T51	3けたの数ってことですか？	C67 789とかもできるんじゃない？ C68 はい。3けたの、それも数が大きい3けた。 C55 まとまり算でできるよ。
T52	789みたいなややこしい数も、何百、何十、いくつに分けたらできる…？	C69 できる！！！！

7. 分析と考察

A ①何十、何百に一位数をかける乗法の場面を、10を単位として数を見ることで九九を活用して計算できることを確認する。

前時の見方・考え方を振り返り、もう一度、二位数×一位数(何十×いくつ)の計算も既習事項である九九を活用していることを確認した。その結果、C8「空いているところも…」のように他の乗法の式も、九九を活用すればできるという児童と、C9「中途半端な数だからできないと思う…」のようにきりのよい数以外は九九を活用してもできないという児童がでてきた。その中でも、乗法は九九を使う(使える)ととらえている児童が多かったように感じる。この既習事項である九九をどのように活用していくかという問いから、本時の活動に繋げていった。

Aの学習活動は、主に前時の復習の時間であるが、 20×3 は九九表の中にあることから、九九をもとにして考えていることを理解するのが難しかったり、20を10のまとまり(10を単位として数を見る)ととらえて考えることができなかつたりする児童もいた。しかし、10のまとまりを10円玉として図を書くことで多くの児童の理解へとつなげることができた。

児童の中で、十の位が1の数は身近な数と感じているようで、全部埋めたいけど不安…という意見を、既習九九のところから埋めていこうと自信につなげることとした。

C ③いつでも九九を活用できる分け方を考え、10を単位として数を見て考える有用性を見出す。

Bの活動から、色々な分け方があること・空欄(九九以外、きりの悪い数)も九九を活用して計算できる…かもしれないことが分かった。Bで行ったのは、被乗数が身近だと感じていた十の位が1の数である。しかし、実際埋めたいと言っていた部分には十の位が2、3の2位数もあるため、いつでも九九を活用できる分け方について考えていった。

被乗数を3つに分配して考えたC49「23を、9と9と5に分けました。」と、20と3に分配して考えたC51「私はかけられる数を20と3に分けました。」はどちらも九九を活用しているので、本時のめあてには沿っている。しかし、被乗数が10のまとまりが2つあると見て、まとまりに着目しながら被乗数を分配すると、九九を活用できるだけでなく、次時の筆算形式に繋げることができる。C32とC51の考え方が同じなのは、いつでも活用できる分け方であるということに気づき、C56は「まとまり算だ。」のように“まとまり算”と名前を付けた。この発言から、児童は何十といくつに分配するといつでも活用できると分かった。また、 32×6 をしたことで、それが確実となった。

振り返りから

2位数×1位数を新しい問題に出会ったと感じ、難しい・不安だと発言する児童が多く見られたが、本時を通して、2位数×1位数も既習九九を活用すればできると感じた児童の振り返りが多く見られた。既習事項から考えて得られた結果を捉えなおしたり、新たな問題を見出したりして、統合的・発展的に考察を進めていこうとする態度につながったことに、今回の授業の成果を感じた。また、被乗数を分配するときに「何十といくつ」と表現する児童(3番、7番)や「きりのよい数に分ける」と表現する児童(2番、5番)のように、自分の言葉で本時での学びをまとめている児童がいた。どちらも被乗数の分配の仕方に着目し、十進位取り記数法をもとに既習九九の活用の仕方考えた見方・考え方の成長へと繋がったことが分かる。

算数は好きだが普段発言することが少ない児童(10番)の「板書にみんなの意見がたくさんあって、みんなも算数が好きなことが分かり、算数が好きなばくは安心した…」や、算数を苦手と感じ、なかなか自信をもてずにいる児童(11番)の「今日はいっぱい手をあげて、分からないところはみんなで考えた…」のような振り返りもあった。児童が互いの問い続ける姿から、主体的・対話的で深い学びを実現できたように感じた。

B ②既習事項(九九)を活用した計算方法を考える。

九九を活用するというめあてから、被乗数14を分ければ活用できそうと考える児童が多かった。C22「14の段は九九の中にはないから…」の考えのように、14を二つや半分に分配して計算する児童が多くいた。1~9のいずれかといくつに分けることで、九九の中に存在する乗法であることが児童の安心に繋がったようだった。一方で、C32「僕は、14を10と4に分けて…」のように10といくつで分けて考えた児童は2、3人程度だった。C32の発表を聞き、C38はAの活動と繋げて、「10のまとまり1つが2つある。」に気付いたが、そこから 1×2 をもとにしていて分かったのは、C38の一人だけだった。C32とC38の考え方が今回の授業の要となる部分だったが、私自身が意見を聞いて図を書いて、より詳しく説明した。その結果、C32、C38の考え方を多くの児童が理解はしたものの、なぜその考え方がよいのかと数の性質に着目する理解については弱かったように感じる。児童の気づきや疑問を繋げていく部分が今後の私の課題となった。既習から類推し、筋道立てて考えようとする態度を育てるためには、十分に考え、試行錯誤する時間が必要だったと感じる。

D ④被乗数が3位数の場合にも同じように計算したりと、筋道立てて発展させて考える。

C66「九九は2年生で習ったから、2年生の学習が分かればできる…」のように、既習事項(九九)を生かせば、習っていなかった乗法の計算もできることに気付いた。この学びから児童は新たな問題を見出したりして、統合的・発展的に考察を進めていこうとする態度が身についたように感じる。また、何十といくつに分配するよさに気付くと、児童は被乗数が3位数になっても計算できるのではないかと予想を立てた。児童が十進位取り記数法での数の表し方や、10や100を単位として数を見ることで九九を使って計算できることを理解し、統合的・発展的に考えることができるようになったのは成果であったと言える。

見方・考え方を働かせ、問いを見出し、その問いをつなげていくことで、児童がまた新たな問いを生み出せることを、実践を通して感じる事ができた。本単元でなく、今後も児童が問い続ける授業をデザインしていきたい。